

# 中部方面混成団創立9周年 大津駐屯地創設57周年記念行事



式辞を述べる混成団長



## 来場者 4,200名

平成二十八年五月八日(日) 中部方面混成団及び大津駐屯地(団長兼大津駐屯地司令 深田 尚則一陸佐)は、国会議員、滋賀県副知事、大津市長をはじめ、協力団体近傍駐屯地、部内外多数の来賓の出席を得て、団創立九周年・駐屯地創設五十七周年記念行事を挙行了した。今年度の記念日行事は熊本大震災の影響で縮小されたが、天候にも恵まれ、多数の来場者で賑わった。

観閲式は、混成団副団長(佐藤一陸佐)を観閲部隊指揮官として、団隷下部隊が参列し、観閲行進では、今年の春に第一〇九教育大隊に入隊した新隊員、第四陸曹教育隊の学生、第一〇教育大隊、第四十七普通科連隊、第四十九普通科連隊の隊員が威風堂々と行進した。

式典後は、方面音楽隊とラッパの合奏、新隊員による自衛隊体操が行われ、見学者を魅了した。

式典後、第三戦車大隊による戦車試乗、第四施設団による体験乗船、高機動車の体験試乗、各装備品展示及び記念会食が催され、来隊された方々に混成団及び駐屯地に対する一層の理解を得ることができた。



MACB  
QRコード  
編集・発刊

中部方面混成団  
本部広報室

Tel.077-523-0034

### 駐屯地司令感謝状

- 大津自衛隊協力会 旗瀬 昌平 様
- 大津自衛隊協力会 土手下 春江 様
- 大津駐屯地業務隊OB会 住友 佐喜雄 様
- 団体 チムニー株式会社 「はなの舞」大津駐屯地店様

### 混成団長感謝状

- 中部方面混成団友の会 村田 和夫 様
- 中部方面混成団友の会 和田 治雄 様
- 第四十七普通科連隊OB会 河端 博 様
- 第四十七普通科連隊 「百万一心の会」 前 卓志 様
- 第四十九普通科連隊後援会 牧野 信男 様
- 第四陸曹教育隊友の会 水元 與太郎 様
- 第一〇教育大隊教友会 鈴木 重雄 様
- 第一〇教育大隊教友会 濱田 元幸 様
- 第一〇教育大隊協力者 長田 英三郎 様
- 団体 株式会社 セノン 様

### ちょっと一服

四月から始まった新隊員教育は、六月下旬をもって修了し、新隊員たちは、後期教育すなわち、職種部隊による職種の特技教育を受けるために巣立って行きました。

新隊員の諸官たちは、この三ヶ月間、慣れない団体生活で起居を共にしながら、お互いに励まし合いながら、時には嬉し涙や悔し涙、そして家族から離れたことによる寂しさの涙も流しながら、しかし立派に様々なハードルを乗り越えて、成長してくれたものと確信しています。まさに「艱難汝を玉にす」だと思います。よく頑張ってくださいました。

中部方面混成団とりわけ、大津駐屯地及び善通寺駐屯地に所在する隷下部隊は、陸曹や新隊員の基本教育に係る専任部隊であり、「人を育てる」ことを常に意識しながら、隊務を運営しています。また、中部方面混成団には、即応予備自衛官を含む普通科連隊もありますが、この部隊においては、即応予備自衛官の招集訓練を実施しており、基本教育ではありませんが、「人を育てる」という観点では、同じです。

ここで、「育てる」ということについて考えてみたいと思います。「育てる」という漢字は、「む」と送り仮名をつけて、「はぐくむ」と読みます。小職は、すこし天邪鬼のところがありますので、「ハグ組む」としてしまいました。ハグは「Hug」です。すなわち、英語で「抱擁」等の意味で「優しく包み込む」イメージです。「育てる」とは、教え成長させるという使役的な意味もありますが、それだけではなく、育てる対象となる人に寄り添い、「包み込んで」、一緒にその人の成長に取り「組む」ことではないかと思えます。それが「Hug組む」であり、「育む」ことではないかと思うのです。したがって、「育てる」ことは、常に人対人として、「人を大切に育てる」原点ではないでしょうか？

口で言うのは容易ですが、それを実践するのは、本当に難しいと思います。そこで、教育する側の思いとして大事なことが、人を育てながら、自分も育つ、すなわち、「共育」という考え方です。「教育」から「共育」へ、そしてお互いに成長する。このようなことを考えながら、「いかにして人を育てるか」日々挑戦しています。

中部方面混成団長 深田一佐

第四十七普通科連隊

# 情報管理検査受検



第四十七普通科連隊（連隊長 齊藤一陸佐）は、六月二十日から二十四日までの間、海田市及び善通寺駐屯地において中部方面混成団が実施する情報管理検査を受検、検査官である副団長への状況報告、保全庫、執務室等の巡視などを通じ、秘密保証、文書管理、保有個人情報管理の各分野の隊務遂行状況を確認いただいた。「情報管理は、コンプライアンス、すなわち法令遵守そのものであり、今まで以上に隊務に創意を尽くし、隊員の意識改革も含め、徹底を図らなければならない」との所見を受け、日頃予備自衛官を含めてその意義の高揚を図り情報流出の未然防止に努めてゆく。

## 第1次団集中野営



第四十七普通科連隊は、あいち野演習場で実施された第一次団集中野営（五月三十一日から六月十日）に参加し、教育を支援するとともに、常備・即自砲、対人狙撃銃の



射撃、爆破訓練を実施した。迫撃砲では、第四中隊新編後初となる実射、また発煙弾、照明弾を含む各種弾種の射撃、新たな訓練基準による射撃と観測手の連携による狙撃、連隊初となる小型指向性散弾の爆破などを行い、練度向上を図った。連隊は更に演練を重ね常備即自とともに部隊の練成に励んでいく。

## 隊内生活体験支援



連隊は、本部管理中隊（中隊長 妹尾一尉）担任で五月二十四日から二十六日の間、海田市駐屯地が実施した隊内生活体験を支援した。二社一団体七十名の生活体験参加者は、基本教練、救急法や担架搬送等を体験した。最終日には、企業関係者等ご臨席のもと、各参加企業等との参加企業等との団結「チームワーク」を「行進」により披露した。生活体験参加者の一人から、「大きな声



で自信をもってやること、多少の失敗も気にせず思いっきり出来ました。」との感想が聞かれた。本生活体験支援の意義を再確認できた。

# 連隊創隊12周年記念行事



式辞を述べる茅野連隊長

行事には連隊後援会・OBをはじめ隊員家族が多数参加し、満開の桜の下、参加者全員で記念撮影、曹友会主催の各種アトラクション(宝ひろい徒競走、ビンゴ大会、三河陣太鼓演舞)、装備品展示・体験など行い会場は大いに賑わった。

また、行事に先立ち定期異動に伴う転入家族オリエンテーション(部隊概要説明、共済事業説明など)も併せて行い、転入家族の部隊に対する信頼感の醸成を図った。

**隊員家族、後援会・OBと共に祝う**

連隊(連隊長 茅野一陸佐)は、平成二十八年四月三日、豊川駐屯地において連隊創隊十二周年記念行事を執り行った。行事は、隊員の一層の使命の自覚、士気の高揚及び団結の強化を図るとともに、隊員家族及び協力団体等と共に祝し相互の親睦を図ることを目的として行い、感謝状贈呈式、祝賀懇親会(バーベキュー形式)、職場見学などを実施した。

## 第四十九普通科連隊



参加者全員(約400名)で記念撮影!



## 我ら49連隊



曹友会主催のアトラクション



祝賀懇親会(鏡開き)



連隊長感謝状贈呈式



第1次連隊指揮所開設訓練 [作戦会議] (4. 22 豊川駐屯地)

## 訓練検閲に向け本格始動

連隊は、今年度新規採用の即応予備自衛官百名を新たな戦力として受け入れ、平成二十八年四月十四日から各出頭訓練地(金沢、豊川、久居、大久保、信太山、伊丹)において、平成二十八年年度の即応予備自衛官招集訓練を開始した。

今年度は、連隊創隊以来初となる連隊訓練検閲受閲(八月・十一月)の年であることから、連隊本部・各中隊ともに年度当初から段階的に各種の練成訓練に励むとともに、連隊SOPハンドブックを基に、隊員の基本基礎動作についても周知徹底を図り、各種技能の錬磨・向上に邁進中である。



混成団長訓練視察 [第1中隊] (6. 20 三小牛山演習場)



81ミリ迫撃砲実弾射撃 [第5中隊] (6. 9 あいば野演習場)



小銃小隊攻撃訓練 [第3中隊] (5. 20 信太山演習場)



第2次連隊指揮所開設訓練 [連隊本部] (5. 18 日吉原演習場)

# 第四陸曹教育隊



## 夏季における教育開始

第四陸曹教育隊（隊長 中山一陸佐）は、六月十四日第一八五期陸曹上級課程一〇二名、二十三日第一二八期初級陸曹特技課程一二七名及び第一二九（一次）期陸曹候補生課程四十八名、二十四日に第五十九期生徒陸曹候補生課程四十名がそれぞれの課程を終了した。

各中隊は教育を終了したのもつかの間、第一期中級陸曹集合教育九一名、第一二九期陸曹候補生課程二八七名をそれぞれ受け入れ、六月二十七日に教育開始式、七月四日に入校式を実施し夏季における教育を開始した。

中級陸曹については約三週間、四ヶ月の教育を、候補生は約三ヶ月間教育を実施していく。今年は例年以上の猛暑であるが、学生は「中級陸曹及び初級陸曹として必要な知識及び技能の修得」を目指し座学、実技等に日々励んでいる。



第13期中曹開始式



第129期陸曹候補生課程入校式

## 第185期上曹課程・第128期陸曹特技課程総合訓練(あいば野演習場)



徒歩行進  
(上曹課程)



命令下達  
(上曹課程)



携帯対戦車弾射撃  
(陸曹特技課程)



81mm迫撃砲射撃  
(陸曹特技課程)



4曹教友の会会員様及び隊員達



大盛況なビンゴ大会

## 第四陸曹教育隊創隊六十二周年記念行事

隊は、六月二十六日（日）、第四陸曹教育隊創隊六十二年記念行事を実施した。昨年度と同様に、琵琶湖汽船「ビアンカ」船内で記念式典及び祝賀会を行ったが、当日は前日まで一週間降り続いていた雨もやみ、隊員・家族・四曹教友の会を合わせ、総勢百五十名の参加を頂いた。

大津港を出航したビアンカは、約二時間半クルージングし、記念行事として、四曹教友の会会員大西様に対する感謝状を贈呈し、隊長挨拶の後、友の会会長水元様よりご祝辞を頂き、四曹教の歴史や伝統を振りかえるとともに、今後の陸曹教育に対する決意を新たにされた。

祝賀会は、ビュッフェ形式の多彩な料理に加え豪華景品が当たるビンゴ大会を実施して盛況なうちに終了した。今回参加された方々からは「クルージングはとても楽しかった。来年もぜひ行事を開催して下さい。」等嬉しいお言葉を戴いた。

なお記念行事の開始に先立ち船内において四曹教友の会総会が実施され、平成二十八年度新役員が選出された。

# 第一〇九教育大隊



第九期一般陸曹候補生  
平成二十八年年度自衛官候補生 修了式

第一〇九教育大隊（大隊長 佐伯二陸佐）は、平成二十八年六月二十六日に大津駐屯地において第九期一般陸曹候補生三一二名及び平成二十八年年度自衛官候補生（女子）一三二名に対し、修了式を実施した。今後新隊員はそれぞれ全国各地に配属され自衛官としての経験を積んでいく。

本教育は、約三ヶ月に渡り実施され、大隊長要望事項である「啐啄」及び「活模範たれ」を具現すべく日々訓練に励んだ。ともに汗を流し、時には厳しくも皆で励まし合いながら積極的に困難に挑んでいった。新隊員のこれからの活躍を祈念するとともに、大隊一同見守っていききたい。



式辞を述べる大隊長



同期とともに切磋琢磨し、時を刻んだ日々が思い返される。

## 新隊員の歩み



歩哨訓練



基本教練



着 隊



25km行進



戦闘訓練



実弾射撃

# 第一一〇教育大隊



## 平成二十八年年度 一般陸曹候補生

### 自衛官候補生

### 修了式

大隊（大隊長 増田二陸佐）は、六月二十六日（日）第九期一般陸曹候補生一九七名、自衛官候補生一一九名の修了式を挙行した。

約三ヶ月の厳しい教育を修了した三一六名の新隊員たちは、自衛官らしく精悍で逞しくなった姿を多くの来賓並びに家族の方々に披露し、驚かせていた。

今後はそれぞれの職種や任地で専門的な教育を受けるが、普通寺駐屯地での三ヶ月間の経験や思い出は大きな糧となるであろう。



申告をする大西2士、藤原候補生



それぞれの後期教育へ



家族との会食

## 新隊員3ヶ月の軌跡



1秒でも早く山頂へ!!



完歩を目指し25km行進



小銃陣地の構築



希望と不安を胸に...



気魄の戦闘訓練



練成成果の発揮



基本教練練度判定



責任の重さ

いよいよ前期教育の山場を迎え、野営訓練、戦闘訓練練度判定、香色山登山走競技会等の厳しい訓練が目白押し。  
今までの練成の成果を発揮し一生懸命悔いが残らないよう全力を出し切りしました。

### 六月（完成期）

各種練度判定が始まり、合格できるよう班長の指導にも熱が入る。気温も上がってきて暑さに負けないためにも同期で声を掛け合い、課業外の体力練成は怠らず逞しくなってきた。

### 五月（練成期）

自衛隊としての団体生活も慣れてきて、毎日新しいことを習う日々。分からない事は班長に質問をし、疑問点を解消していく。

### 四月（環境順応期）

緊張の面持ちで着隊し、自衛官としての基礎を学ぶ生活が始まった。

### 入隊時